

続気象学入門講座を始めるにあたって

天気編集委員会

気象学入門講座は、1969年から2年にわたって本誌に掲載されました。この講座は、専門の指導者を直接持たない会員や、これから気象学を学ぼうとする会員に、どのような本をどのように勉強したらよいか等の具体的な指針を提供することを目的として始められたものです。この講座の別刷を合本して製本した“気象学への手引”は、気象学一般や各専門分野への入門手引として、今日でも学部学生や現業技術者の間で利用されています。しかし、すでに刊行後10年近い年月が過ぎ、その間の気象学の発展に伴っておびただしい数の新刊書や論文・文献が刊行されているため、再企画を望む声が多く聞かれるようになりました。

そこで当委員会では、下記のような内容で入門講座を再開することにし、現在その準備を行なっており、予定通り進めば、1978年4月号から連載できる運びとなります。内容は、主として前回の講座以後の発展を中心に学問分野の展望をしながら、それぞれの分野を勉強するのに適当な文献の紹介を行ない、前回触れられた部分は必要に応じて引用するというもので、原則として各項目4ページを予定しています。

今回の企画では、基本構成として、ガイダンス、基礎コース、アドヴァンスト・コースの3本の柱をたてました。ガイダンスでは、これから気象学の勉強を始めるにあたって必要な知識や参考書・啓蒙書の案内をします。基礎コースでは、どういう専門分野に進むにしても必要な基礎学力の習得のための文献案内をします。アドヴァンスト・コースでは、その項目に興味ある人が、専門家になるためにさらに進んで勉強するうえで役立つ情報を与える目的で文献案内をします。

掲載期間は、1年ないし1年半程度を考えており、完結した時点で“続・気象学への手引”（仮称）に合本、刊行することを予定しています。なお、当委員会では、読者の希望をできるだけ多く取り入れ、要望に応えるものにしたと考えますので、この講座に対する注文や批判が多数寄せられることを願っています。

続・気象学入門講座 目次（案）1978～1979完結予定

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 気象学へのガイダンス（天気編集委員会が担当） | 19. 熱帯気象学 |
| [基礎コース] | 20. 高層大気力学 |
| 2. 総観気象学 | 21. 大気境界層の物理 |
| 3. 気象力学・気象熱力学 | 22. 衛星気象学 |
| 4. 気象放射学 | 23. レーダ気象学 |
| 5. 雲物理学・降水物理学 | 24. 惑星気象学 |
| 6. 大気電気学・大気化学 | 25. 自動気象観測（隔測）・通報システム |
| 7. 気象観測と気象器械 | 26. 応用気象学 |
| 8. 気象統計学 | 27. 大気汚染の気象学 |
| 9. 気候学 | 28. 実験気象学 |
| 10. （超）高層大気物理学 | 29. 天候・気候改変の気象学 |
| 11. 生活と気象 | 30. 海洋気象学 |
| [アドヴァンスト・コース] | 31. 極気象学 |
| 12. 気象予測論 | 32. 気象災害論 |
| 13. 回転流体力学 | 33. 気象教育論 |
| 14. 対流論 | 34. 気象データ処理法 |
| 15. 中小規模現象の気象学 | [研究のすすめ方] |
| 16. 大気大循環論 | 35. 最近の気象資料 |
| 17. エーロゾルの気象学 | 36. 論文の書き方 |
| 18. 気候変動論 | 37. 気象学教科書・参考書のリスト |

1978年1月